

〔学生〕（実習前）平成27年10月，（実習後）平成28年4月

〔施設職員〕平成28年1月から同年3月

4. 調査項目

図1は、本学で使用している保育実習Ⅰ（施設）及び保育実習Ⅲで使用している実習評価表である。

評価表は、次の4つの大項目と15の下位項目からなっている。

施設実習評価については、児童福祉施設等の実習先に対しこれらの項目について、5段階で評価を依頼している。この評価を「施設評価」として、比較の対象とした。ただし、実習先の一部については、施設独自の評価方法を用いている施設があり、当該施設の評価については調査・統計等の対象とはしていない。

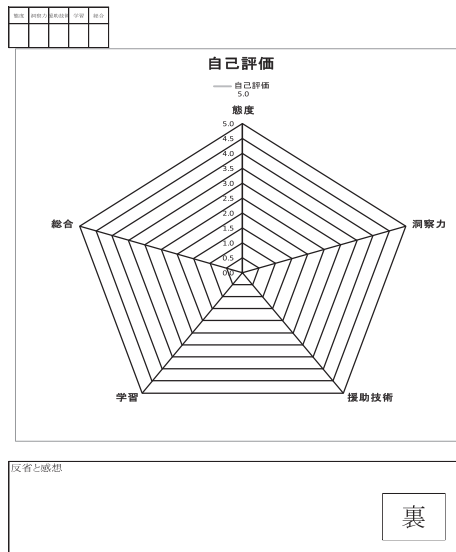
図2 学生用質問紙

施設実習を振り返ろう！			作成日	
			年	月 日
実習施設名	実習生氏名	総合自己評価		
種別	学務番号	5・4・3・2・1		
名称				

評価項目	評価	平均
1 態度		
目的を意識して積極的に取り組むことができる	5・4・3・2・1	
指導や助言を理解し、微笑みかつ謙虚な態度で行動できる	5・4・3・2・1	
笑顔で協調的な態度をもって取り組むことができる	5・4・3・2・1	
言葉遣い、礼儀作法、身だしなみは良好である	5・4・3・2・1	
身体的にも、精神的にも自己の健康管理に留意して行動できる	5・4・3・2・1	
2 洞察力		
利用者、職員など周りにいる人々の状態を敏感に受け止めることができる	5・4・3・2・1	
自分がどのような働きをすればよいのか洞察し行動できる	5・4・3・2・1	
3 援助技術		
利用者への個別援助の方法を理解し、適切に実践することができる	5・4・3・2・1	
集団活動に対する具体的な援助ができる	5・4・3・2・1	
実践場面において全体を把握したうえで援助できる	5・4・3・2・1	
利用者と適切にコミュニケーションを図ることができる	5・4・3・2・1	
衣服、食事、居室など生活環境についての理解、及び適切な援助ができる	5・4・3・2・1	
4 学習		
実習日誌への記録は、誤字・脱字がなく、実習内容が適切に記録できる	5・4・3・2・1	
実習課題の設定が適切であり、課題を達成することができる	5・4・3・2・1	
実習施設及び職務内容について理解できる	5・4・3・2・1	

5 大変よくできている 2 あまりできていない
4 多少不足しているが、良くできている 1 ほとんどできていない
3 ほぼできている

表



また、学生への調査では、図1の評価表を基に図2のような質問紙を作成し、1年次の実習前の10月に事前学習の振り返りを兼ねて自己評価を実施、2年次の4月に行った調査では、施設実習を終えての振り返りと合わせて自己評価を5段階で記入させた。

また、ダイアグラムに自己評価の結果を記入させ、視覚化することで理解しやすいよう工夫した。

Ⅲ. 結果と考察

アンケート調査の結果については、施設実習評

価において施設独自の評価表を使用している学生の結果を対象から削除した106名について比較対象とした。

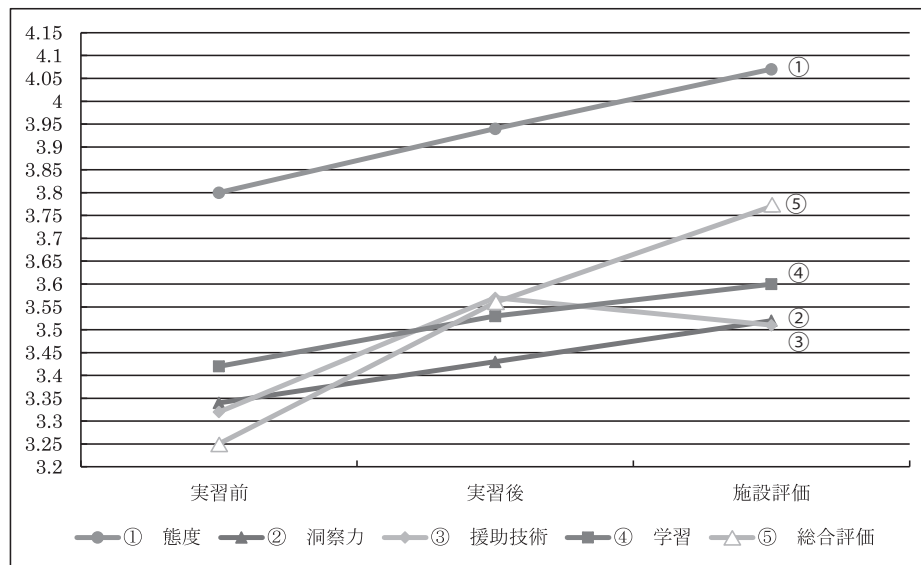
1 大項目の平均値の比較について

表1は、4つの大項目ならびに総合評価についての実習前・後の学生の自己評価及び施設評価の平均を一覧にしたものであり、グラフ化したものを図3として示す。

表1 施設実習前・後の大項目別の得点平均の変化 ※（ ）内は標準偏差

	実習前	実習後	施設評価
1 態度	3.80 (0.79)	3.94 (0.74)	4.07 (0.81)
2 洞察力	3.34 (0.75)	3.43 (0.68)	3.52 (0.76)
3 援助技術	3.32 (0.70)	3.57 (0.72)	3.51 (0.72)
4 学習	3.42 (0.71)	3.53 (0.73)	3.60 (0.80)
5 総合評価	3.25 (0.55)	3.56 (0.52)	3.77 (0.69)

図3 施設実習前・実習後の大項目の得点平均の変化



自己評価の大項目それぞれの項目の実習前、実習後、施設評価についての単純集計からは、援助技術の項目において評価平均が下がっていることが見られたが、そのほかの項目ではおおむね評価が上がっている。

2 大項目別の下位項目について

表2は、下位項目についての平均値及び標準偏差である。それぞれの項目の結果については、図4から図8に示す。

表2 施設実習前後の下位項目の平均の変化 ※ () 内は標準偏差

集計結果	実習前	実習後	施設評価	実習前
大項目	下位項目	平均 A (標準偏差)	平均 B (標準偏差)	平均 C (標準偏差)
態度	目的を意識して積極的に取り組んでいた	3.59 (0.72)	3.75 (0.69)	3.82 (0.77)
	指導や助言を理解し、誠実かつ謙虚な態度で行動した	3.94 (0.67)	4.07 (0.66)	4.18 (0.77)
	明朗で、協調的態度を持って取り組んでいた	3.82 (0.80)	3.77 (0.63)	3.95 (0.79)
	言葉遣い、礼儀作法、身だしなみは良好であった	3.91 (0.71)	3.98 (0.70)	4.21 (0.80)
	身体的にも、精神的にも自己の健康管理に留意していた	3.74 (0.96)	4.11 (0.92)	4.18 (0.83)
洞察力	利用者、職員など共にいる人々の状態を敏感に受け止めることができた	3.46 (0.75)	3.52 (0.69)	3.54 (0.75)
	自分がどのような働きをすればよいか洞察し、行動できた	3.23 (0.73)	3.35 (0.66)	3.50 (0.76)
援助技術	利用者への個別援助の方法を理解し、適切なはたらきかけをすることができた	3.18 (0.64)	3.53 (0.69)	3.38 (0.65)
	集団活動に対する具体的援助ができていた	3.29 (0.69)	3.33 (0.68)	3.37 (0.70)

援助技術	実践場面において全体を把握したうえで、援助していた	3.15 (0.68)	3.32 (0.67)	3.30 (0.65)
	利用者と適切にコミュニケーションを図ることができた	3.58 (0.73)	3.91 (0.71)	3.85 (0.75)
	衣類、食事、居室など生活環境についての理解及び、適切な援助ができていた	3.42 (0.70)	3.78 (0.63)	3.65 (0.71)
学習	実習日誌への記録は、誤字・脱字がなく、実習内容が適切に記録されていた	3.30 (0.77)	3.34 (0.76)	3.51 (0.86)
	実習課題の設定が適切であり、課題を達成することの重要性和内容が理解できた	3.41 (0.63)	3.41 (0.66)	3.66 (0.74)
	実習施設及び、職務内容について理解できた	3.54 (0.72)	3.84 (0.65)	3.64 (0.78)
	総合評価	3.25 (0.55)	3.56 (0.52)	3.77 (0.69)

1) 態度について

図4に示したのは、大項目の「態度」の下位項目5項目についての評価平均値をグラフ化したものである。

態度の項目については、「明朗で、協調的態度をもって取り組んでいた」の項目について実習後に数値が低下しているが、その他の項目については全て実習後の評価が上昇していることがわかる。

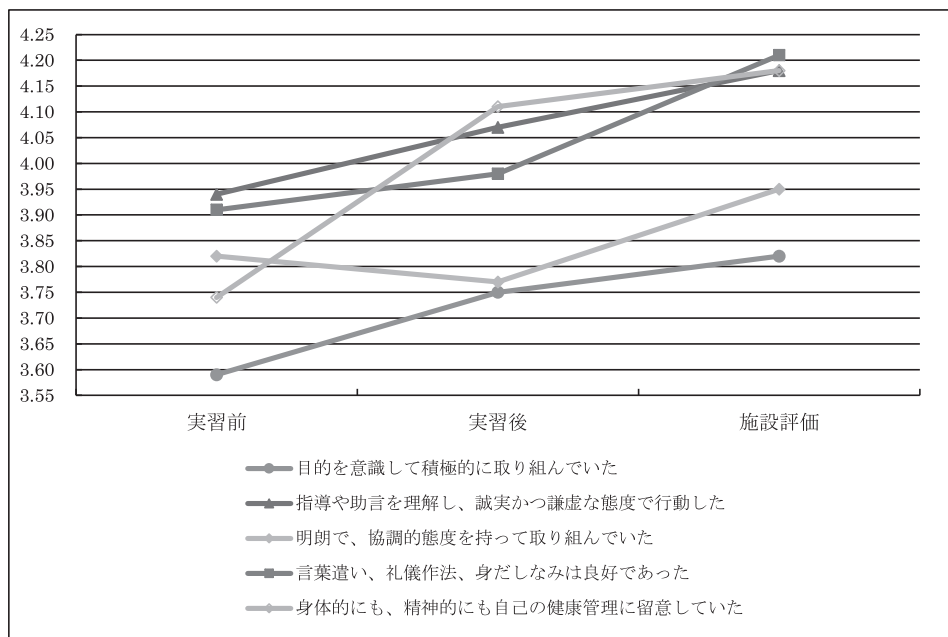
「身体的にも、精神的にも自己の健康管理に留意

していた」の項目については、施設への宿泊が中心の実習であるが、学生が体験する中で体調管理をしっかり行っていたのではないかと考えられる。

また、施設評価については全ての項目において学生の自己評価よりも高い評価をもらっていることがわかる。

このことから、あいさつなど実習に臨む態度についての施設評価は、学生が感じているより良い印象を持たれていると考えられる。

図4 態度



2) 洞察力について

図5は、大項目「洞察力」の下位項目2項目の

評価平均値をグラフ化したものである。

2つの項目とも、実習前より実習後の評価が上

昇しており、施設評価の平均値は同じ値と上昇を示している。とくに、「自分がどのような働きをすればよいか洞察し、行動できた」の項目においては、実習前の評価よりも実習後の値が上昇しており施設評価はさらに上昇している。

このことから、学生が実習する中で利用者や職員の状況などを察知し、行動できていたと考えられる。

3) 援助技術について

図6は、大項目「援助技術」の下位項目5項目についての評価平均値をグラフ化したものである。

この項目については、「集団活動に対する具体的な援助ができていた」の項目で、実習前より実習後の評価が下がっている。実際の施設での実習において、障害者施設では日中活動などプログラムされているものが多く、学生の望むような活動がで

きなかったことが評価に影響しているのではないかと考えられる。

その他の項目については、実習前より実習後の評価が高くなっていることがわかる。

しかし、施設評価については、実習後に実習を行った施設での現場体験により援助技術の向上につながったと考えている学生が多くいるが、施設職員からの評価は学生の感じた手応えに比べると高くないことが読み取れる。

福祉系援助技術の授業科目が2年生の後期に設定されているため、どのように行動すればよいのかなど施設職員とのコミュニケーションを図ってはいるが、行動にすぐに移すことが難しかったのではないかと考える。障害者を理解する、施設利用者を理解するという点について、どうすれば深まっていくのかを工夫することが必要である。

図5 洞察力

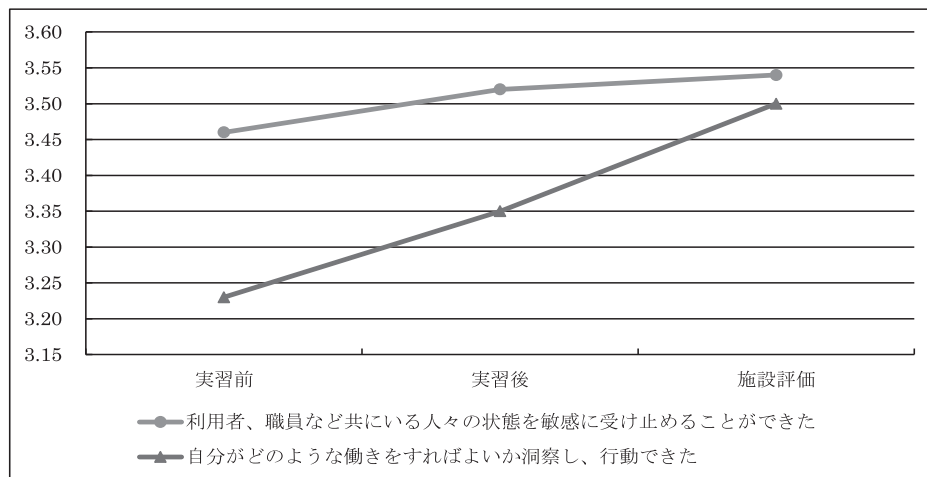
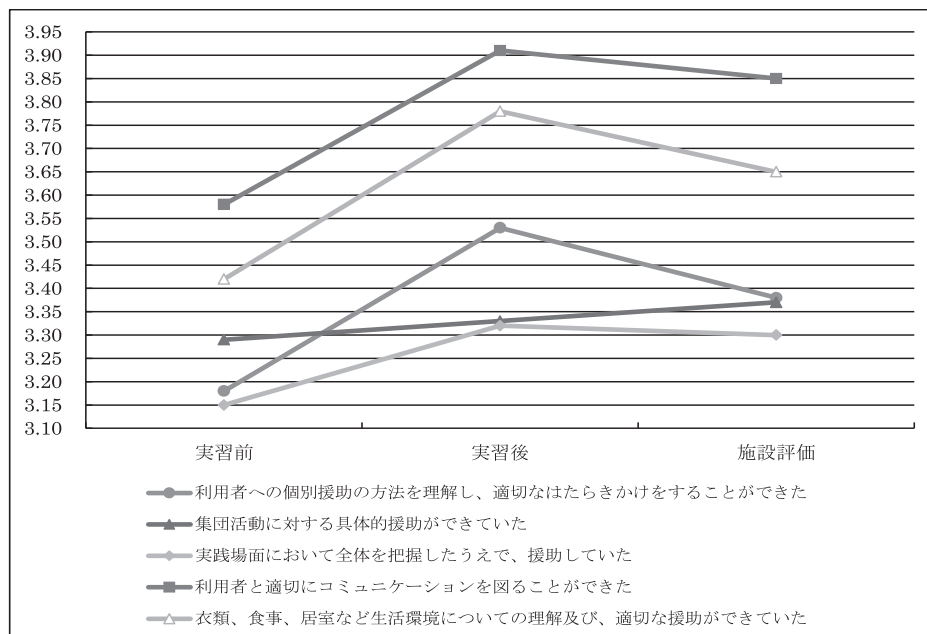


図6 援助技術



4) 学習について

図7は、大項目「学習」の下位項目3項目の評価平均値をグラフ化したものである。

「実習日誌への記録は、誤字・脱字がなく、実習内容が適切に記録されていた」および「実習施設及び、職務内容について理解できた」の項目については、実習後の評価は上昇している。日誌に記入・記録することで、職員の行動や職務内容、利用者や入所者の日課などが把握できたことにより理解が深まったと考えられる。

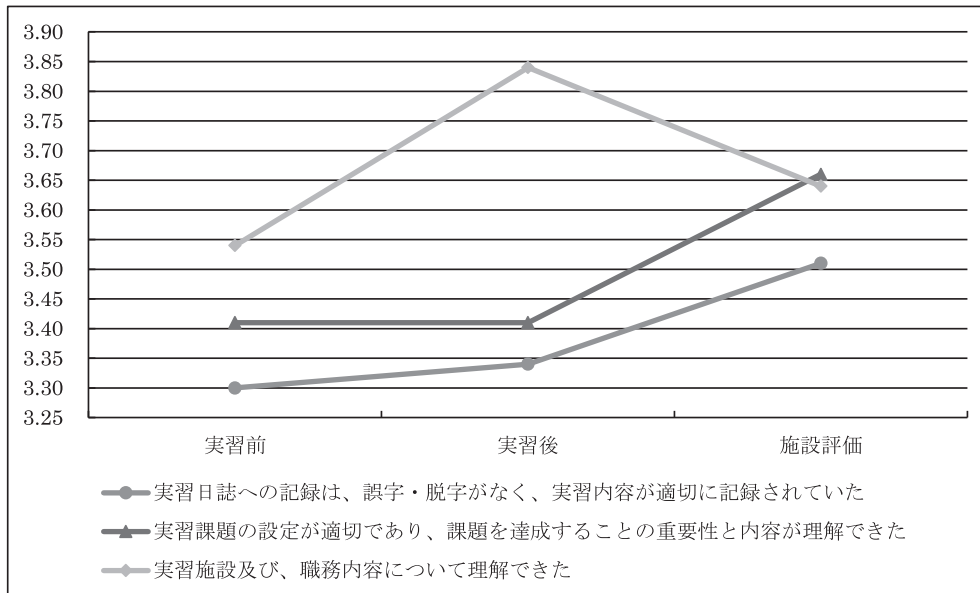
「実習課題の設定が適切であり、課題を達成することの重要性と内容が理解できた」の項目については、自己評価が実習後に下がっている。実習課

題の設定方法について、今後検討していく必要があると考える。

また、施設からの評価では、「実習施設及び、職務内容について理解できた」の項目のみ自己評価より平均値が低くなっている。施設職員から見て、「福祉施設を理解できたか、職員の職務内容を理解できたか、施設利用者を理解できたか」ということについては、学生が思うほど理解が深まっていないという評価である。

授業では、日誌や実習課題を活用し、施設や施設職員・施設利用者の理解を深めるために積極的にコミュニケーションを図るよう指導はしているものの、高い評価を得ることには至らなかった。

図7 学習

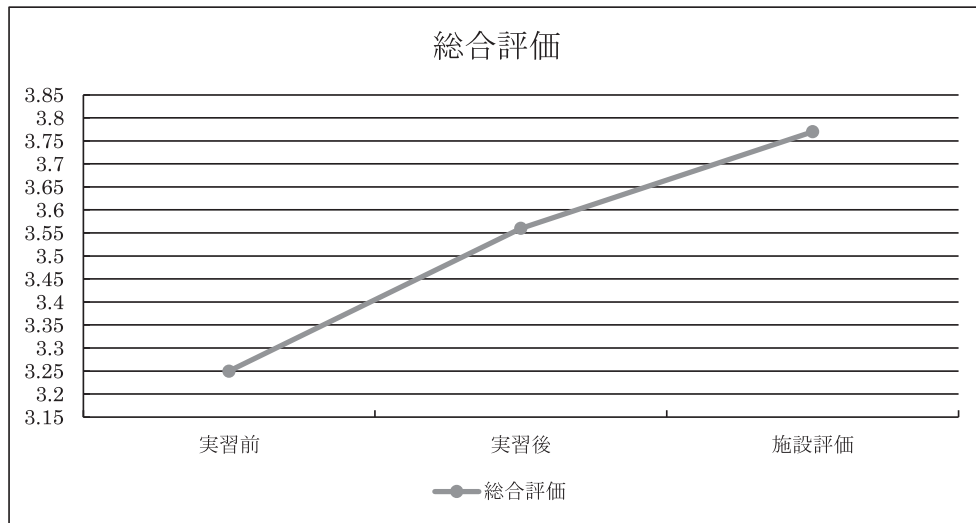


5) 総合評価

総合評価については、図8に示した通りとなっている。実習前より実習後の評価の平均値は高く

なっている。また、施設からの総合評価についても学生の評価より高くなっていることがうかがえる。

図8 総合評価



IV単純集計までの考察

今回は、保育士資格に関する施設実習（児童福祉施設等）における実習前・実習後の学生の自己評価と施設からの評価の差の単純集計（平均値の差）について取りまとめを行った。実習態度など多くの項目については、施設から高い評価を得られているのではないかとと思われるが、実際の現場に必要な援助技術については評価が低くなっている。障害児・者施設や児童養護施設など十分な支援・援助の技術指導が今後の課題になってくると考える。

保育士資格の必須授業であることを考えると、授業内での仮想体験など学生にとってわかりやすい授業の構築が必要であると考え。

牛込彰彦 実習における自己評価の変化について 埼玉純真短期大学研究論文集 第9号 P25-32 2016

埼玉純真短期大学実習指導委員会 実習マニュアル 埼玉純真短期大学実習指導委員会 2016 P59

謝辞

今回のアンケート調査にご協力いただいた学生の皆さん、実習評価表の整理など資料作りに協力いただいた実習委員会事務局の皆様に深く感謝いたします。

参考文献

坂田伸子 実習生が感じた利用者への不適切と思われる対応とそのときの対処行動について～実習生アンケートから～ 東洋大学社会学部紀要 第44-1 P53-66 2006